

第6学年 国語科学習指導案

日時 令和7年11月19日(水) 6校時

児童 6年2組 24名

授業者 岩淵 宏紀

1 単元名 筆者の考えを読み取り、テーマについて考えを述べ合おう

2 学習材名 「考える」とは

考えることとなやむこと/考えることを考え続ける/考える人の行動が世界を変える(光村図書6年)

3 単元の見どころ

(1) 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。 [知識及び技能] (1)カ

(2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1)オ

(3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広めることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1)カ

(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

[「学びに向かう力、人間性等」]

4 単元について

(1) 子どもの実態

子ども達は、一学期に説明的文章「笑うから楽しい/時計の時間と心の時間」の学習で、筆者の主張とそれを支える事例の関係から文章全体の構成を学んでいる。また、「インターネットでニュースを読もう」の学習で、情報源を確かめ、複数の情報を組み合わせて学習することを学んだ。そして、「『鳥獣戯画』を読む」の学習では、筆者の考え方や資料や言葉の使い方を学んでいる。

しかし、考えを一度形成した後に、友達と意見や感想を共有することを通して、自分の考えをさらに深めたり広げたりすることは、まだまだ不十分である。

(2) 学習材について

本教材は、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」そして、「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」が重点となる目標である。そのために、自分の考えを持ち、文章を読んで理解したことを基に、グループで伝え合う活動が設定されている。筆者の主張を捉え、自分の知識や経験と結び付け、自分の意見や感想をもつ。さらに、グループで互いの意見や感想の共通点や相違点等を明らかにしたり、互いの考えのよさを見付け認め合ったりするために適した教材である。

(3) 指導にあたって

単元に位置付ける言語活動

中学生に向けて、「考える」ことについて、自分の考えを学級や学年の友達と伝え合う。

[思考力、判断力、表現力等] C(2)ア

本単元では、同じ「考える」のテーマについて書かれた3つの文章を読み、自分の考えをまとめ、その考えを友達と伝え合う活動を設定する。まず、子ども一人一人が、文章と対話し筆者の主張を理解した上で、これまでの自分の知識や経験と比較したり、筆者の考えに共感することを明らかにしたりすることを通して、自分の考えを形成できるようにする。さらに、友達の考えに触れ自分の考えを深めたり広げたりできるようにするために、グループで対話をする。自分の知識や経験を根拠にしたり、筆者が述べていることを引用したりすることを通して、聞き手側にもよりよく分かるような文章で伝えられるようにする。そして、自分の考えが単元の初めと終わりで変容する様子をデジタル機器を活かして記録し、可視化することで自分や友達の学習状況を確認できるようにしたい。

① 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 進んで学習を進めることができるようにするために、中学校生活を見通し、児童の思いや言葉を引き出して学習のゴール(『自分の「考える」について伝え合おう』等)をつくる。

イ 自分の学びを自覚できるようにするために、ICTを活用することを通して、単元導入時と終末時の「考える」についての自分の考えを記録したり語彙を比較したり、指導事項に関わる児童の振り返りを価値付けたりする。

② 手立て2 言語活動の質を高める工夫

ア 自分の考えを形成するために、論の展開の仕方や構成の工夫、挙げている事例、表現の工夫等の要素に着目し、自分の知識や経験を結び付けてまとめることができるようにする。

イ 自分の考えを深めたり広げたりするために、考えの形成に用いた要素同士を比較し、互いの考えのよさや違いに気付く活動を取り入れる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 C(1)オ ② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広めている。 C(1)カ	① 進んで複数の文章から、共通点や相違点を読み、学習課題に沿って、自分の考えまとめ、伝え合おうとしている。

6 単元の指導計画（全7時間扱い）

次	時	学習活動	◆研究に係わる手立て ・指導上の留意点	【評価】【評価方法】
とらえよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書 p 205 を見て、「考える」とは何かを考える。 ○ 教材文を読み、「問いをもとう」、「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文を読む前に、「考える」とは何か、今の自分の考えをもつ。 ・ 教科書 p 212 「問いをもとう」で出された問いや考えと、「目標」とを関連付けながら、単元の目標を設定する。 <p>◆ 中学校生活を見通し、学習のゴールを児童の思いや言葉を引き出し、進んで学習を進めることができるようにする。（手立て1）</p> <p>◆ ICT を活用し、単元導入時と終末時の「考える」についての自分の考えを記録したり語彙を比較したり、指導事項に関わる児童の振り返りを価値付けたりする。（手立て1）</p>	
ふかめよう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの文章で筆者が最も伝えたいことを考える。 ○ 自分の中心教材を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 p 65 「主張と事例」の学習を振り返る。 ・ 3つの文章から、筆者の主張を読む。 <p>◆ 自分の考えを形成するために、論の展開の仕方や構成の工夫、挙げている事例、表現の工夫等の要素に着目し、自分の知識や経験を結び付けてまとめることができるようにする（手立て2）</p>	<p>【知識①】 筆者がどのように自分の考えを伝えようとしているか、文章の特徴について理解しているか確認する。【記述】</p> <p>【思考①】 3人の筆者の論の展開の仕方や構成の工夫、挙げている事例、表現の工夫等の要素に着目し、「考える」ことについて自分が考えたこと（印象に残ったこと、自分の知識や経験と比較して気付いたこと、自分の考えとの共通点や相違点等）を文章にまとめているか確認する。【記述】</p>
	3 4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者がどのように自分の考えを伝えようとしているか、文章の特徴を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 p 212 下段「言葉に着目しよう」を参考に、筆者の書き方の特徴が表れている言葉や表現を見付ける。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で選んだ中心教材を中心に、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の知識や経験と比べたり、自分の考えとの共通点・相違点を考えたりしながら、文章を読んで考えたことをまとめる。 	
まとめよう	6 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章を読んでまとめた考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 p 213 下段「伝え合いの例」を参考に、互いのもの見方や視点に着目し、交流する。 <p>◆ 自分の考えを深めたり広げたりするために、考えの形成に用いた要素同士を比較し、互いの考えのよさや違いに気付く活動を取り入れる（手立て2）</p>	<p>【思考②】 友達と考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしているか確認する。【発言・記述】</p> <p>【態度①】 進んで自分の考えをまとめ、学習課題に沿って友達と考えを伝え合おうとしているか確認する。【記述・観察】</p>
ひろげよう	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。「たいせつ」、「いかそう」で単元で身に付いた力を確かめる。 	
時間外		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1組と交流する（単元終盤で） ・ 毎日の音読（家庭学習） ・ 関連図書の読書（並行読書） 		

7 本時の指導

(1) 目標

3つの文章を読んでまとめた考えを伝え合い、自分の考えを深めたり広めたりすることができる。

(2) 本時の評価規準

3つの文章を読んでまとめた考えを伝え合い、自分の考えを深めたり広めたりしている。

【思考・判断・表現②】

具体的な子どもの姿	Bに至るための支援
<p>グループで交流し、「考える」ことについて、友達と考えを伝え合い、自分の考えを深めたり広げたりしている。</p> <p>授業での姿</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで交流して、〇〇さんの考えと同じだったのでより大切だと考えるようになった。 〇〇さんの考えも聞いて、考えることについて、そういう考え方もあると知ったので、自分も生かしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 3～4人のグループ等で話し合う。その際、形成した自分の考えの要素（特に印象に残ったこととその理由、自分の知識や経験と比較、自分の考えとの共通点や相違点）を比較することを通して、互いの考えのよさを認め合ったり、自分との違いから考えの深まりを感じたりできるようにする。

(3) 展開

	学習活動 ・ 子どもの反応	◆研究に係わる手立て
導入 5分	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>自分の考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしよう。</p>	<p>◆ 指導上の留意点 評価【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のゴール（目標）を確かめる。 学習計画から本時の課題を設定する。 単元導入時の「考える」ことについての自分の考えを想起する。
展開 30分	<p>3 自分の考えを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ作者を選んだ同士で伝え合いたい。 形成した考えを伝える。(例) 私は、中満さんの「よりよい世界を築くために、何が大切か行動することが重要だ」ということから ①、何か問題を解決するために必要なことを考えて行動することが考えることだと思った。② それは、スポ少の試合で勝つためにどういう練習をすれば勝てるのか考えてやってみたことがあった。その練習を続けたことで勝てるようになったことがあったからです。③ 違う作者を選んだ同士で伝え合いたい。 <p>4 共有することを通して、考えの変化や深まりについて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> (例) 「考える」ことを、初めはじっくりと考えることとしか考えていなかったけど、鴻上さんの文章を読んだり、グループで交流をしたりして、やるべきことをはっきりさせることだと思った。〇〇さんも考えが同じだったので、やるべきことをはっきりさせて取り組むことは、より大切だと考えるようになった。中学校では、学習も部活動もあるので、どちらもしっかり取り組めるようによく考えて生活したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの思い・考えを基にグループをつくる。 児童同士の考えを比較しやすくするために、同じ作者を選んだ同士→違う作者を選んだ同士と共有を進めるようにする。 伝え合うときの視点を示す。 <p>①根拠となる筆者の考え ②自分の考え ③理由付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、伝え合う言葉を提示する。(教科書 p370 参照) ロイロノートにまとめた「考える」ことについての考えを発表する。 ロイロノートの画面を児童と共有し、互いにメモをしたり質問し合ったりすることを認める。 <p>◆ 自分の考えを深めたり広げたりするために、考えの形成に用いた要素同士を比較し、互いの考えのよさや違いに気付く活動を取り入れる。(手立て2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の初め→中心教材の文章から→友達と共有の学習過程で、どのように考えが変容したか振り返られるようにする。 自分の考えを再構成できるように、まとめる時間を保障する。 <p>◆ ICTを活用し、単元導入時と終末時の「考える」についての語彙を比較することを通して、自分の考えの変容を実感できるようにする。(手立て1)</p> <p>【思考・判断・表現②】 [発言・記述]</p>
終末 10分	<p>5 学習の振り返りをする。</p> <p>6 次時の活動を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返る。 次時に、単元全体を通して、どのような力が付いたかを振り返り、自分の学びを価値付ける時間をとることを知らせる。

【期待する振り返りの例】

- 「考える」ことについて自分と同じ考えだったけど、友達と考えを交流することで、根拠（理由）にすることが違っていて、そういう考え方もあった。
- 「考える」ことについて、いろいろな文章を読んだり、友達と話し合ったりして、自分の考えをより強くもつことができた。なぜなら、自分と似た考えの人が多かったからだ。